

2013年6月28日発行

発行 学校法人 大阪成蹊学園
法人事務本部 広報部

〒533-0007 大阪市東淀川区相川13丁目10番62号

TEL. 06-6829-2535

http://www.osaka-seikei.ac.jp/



(禁転載)

WAVE

大阪成蹊学園報

大阪成蹊学園の初代総長に 石井茂理事長が就任



向上と学生・生徒・園児の人間力の向上を目指し、総長を中心に各学長、校長、園長及び教職員一体となり、ブランド力のある、社会から高く評価される学園づくりをめざしてまいります。

大阪成蹊学園は、2つの大学、短期大学、高等学校、幼稚園をもつ総合学園として今年創立80周年を迎えました。また、本年は、大阪成蹊大学の教育学部(仮称)の2014(平成26)年度開学を控えた重要な時期であります。学園では、この節目の年に、教育の一層の質向上、多様な学生ニーズへの対応、学園各校の連携強化などを目的として、学園全

体の教学を統括する総長職(任期6年)を設けました。

総長選考委員会で選考し、理事会の承認を得て決定し、2013(平成25)年4月1日、初代総長に石井茂理事長が就任されました。

2010(平成22)年に理事会が一新し、現理事長のもと様々な施策を講じ、2012(平成24)年度の決算では、学園財政の

飛躍的な改善が実現し、革新的で躍動感のある学園へと大変身しました。具体的には、財務面のみならず、学園風土の改革、ガバナンスの抜本改革、教育、学生指導・支援の強化など8つの重点施策を設け、学園の抜本的な改革に取り組み着実な成果を上げることができました。

今後は、学園の柱である教育の質の

大阪成蹊大学教育学部(仮称) 「設置認可申請書」を文部科学省へ提出

—2013(平成25)年5月末

文部科学省の認可予定は今年10月末、新学部開設は2014(平成26)年4月の予定ですが、「教育の成蹊」が永年培った伝統と実績を4年制大学で展開し、北大阪地区で本格的な教育学部(教育学科)を新設します。

新学部では、
①人間的なふれあいを通して心のきずなを深め、子どもの思いを受け止めることのできる人材
②幅広い学問教養を備え、新しい時代の教育知識を身につけた人材

③多角的視点から現代社会の教育課題に対応できる豊かな感性・確かなセンスを持った人材
④教育実践を省察し研究することのできる人材
の育成を大きな目標とし、熱意を持ってそれを実現する指導経験豊富な専任16人、非常勤32人の教員も既に決まり、新学部の教育課程、授業科目、シラバスなどが真剣に検討されています。

大阪成蹊大学教育学部(仮称)は、時代が求める教育への対応と普遍的な教育の営みとを総合

的・専門的に学修し、未来を切り拓く子どもの「生きる力」を育むことのできる、幅広い教養を持った専門職業人を養成します。また様々な学外実習を体験し、教育現場と教育理論を結びつけて研究することにより「人間力」を有した小学校教員と幼稚園教員および保育士の育成をします。5月からはテレビCMも開始し、今後は、6月～8月、10月～11月に集中的に放映される予定です。

大阪成蹊学園の強み・特色を生かして、大阪成蹊大学に教育学部を成功裡に開設・進展させ、将来の学園、大学の発展への布石とします。

創立80周年記念

ベーゼンドルファー社の
ピアノを導入しました



大阪成蹊学園は今年、創立80周年を迎えます。その節目を記念して、世界最高級のオーストリアのベーゼンドルファー社のピアノ(フルコンサートグランド モデル280)を導入しました。こちらのピアノはこの春に改装を終えた7階ホール(510席)に設置しており、学園のピアノ教育のシンボルとするともに、多くの素晴らしい演奏会なども予定しています。

大阪成蹊女子高等学校



充実した施設で新学期スタート

第3PC教室

大阪成蹊女子高校は、この春に430名(定員280名)の新入生を迎え入れることが出来ました。今や1300人を超える大阪府内でも最も多くの女子生徒が受験し、人気の女子校として高い評価を得ています。

また、生徒数の増加に伴い、教育環境の整備を進め、充実した施設で高校生活が楽しめます。これまでに教室の改装、エアコンの入れ替え、床の張替えに始まり、トイレ、洗面所、食堂などの改装を行いました。そしてこのたび、旧LL教室を全面改装し、時代に即した形で第3PC教室として生まれ変わりました。女子校らしいピンク色のじゅうたんと真新しいPCは生徒に

も好評で、ICTを活用する教育が充実しています。

本校の情報の授業ではワード、エクセルなどの操作からパワーポイントを使ったプレゼンテーションの授業を全コースで行っていますが、このたびの第3PC教室の新設により、さらにパワーアップしました。その結果、英語の授業でも、これまでのLL教室としての機能に加えて、様々なソフトを利用した新たな授業展開も可能になり、また、eラーニングとして自主学習ソフト「すらら」を導入し、基礎学力の向上に努めています。

これからも本校では在校生の満足度と学習効果の向上のため、施設の改装や改修を行っていく予定です。

iPad導入による

ICT (Information and Communication Technology) 教育推進



ICT教育は今や世界的に行われている先端的教育です。コンピュータやパソコン、iPadや電子黒板を利用し、ビジュアルな機器や教材を利用したICT教育の推進は、先進的な教育機関(公私問わず)では早くから研究・導入が成されています。

大阪成蹊女子高校では2013(平成25)年度より時代のニーズに応え、キャリア特進コースをスタートしました。このコースでは試験的に全生徒に「iPad mini」を配布し、自主学習や進路研究のために利用しています。5月

に教員対象のICT教育の研修会を実施し、英語、数学、世界史、体育の4教科の担当者による実践例の研究発表会を行いました。研修会参加者の中には各企業や団体が主催する研究会にも参加し、既に実施している高校への見学など、積極的に研究活動を続けている教員もいます。本校では研究段階ではありますが、生徒への教育サービス充実のため引き続き研究を行い、近い将来には各教科で導入していきたいと思えます。

大阪成蹊女子高等学校
副校長 六室匡司



バトントワリングで世界大会へ スポーツコース・稲熊さん

スポーツコース2年生・稲熊小夏さんが、8月7日(水)～11日(日)にオランダ・アルメアで開催される【第7回WBTF(世界バトントワリング連合)インターナショナルカップ】で、日本代表選手として国際大会に臨みます。

皆さんの応援、よろしくお願いいたします。



Topics

びわこ成蹊スポーツ大学

交換留学 具体化へ始動

● 国立台東大学との国際交流 ●



覚書を交わした台東大学の劉学長(左)とびわこ成蹊スポーツ大学の飯田学長

去る4月4日、本学において、数年前から段階的に進められてきた本学と台湾の国立台東大学との国際交流に関する最終的な「両大学の証明書授与に関する覚書」を締結しました。今回は現実的な交換留学を実施するために、さらに具体的に、修業年限、単位の修

得数、単位の認定方式、証明書の授与の方式などについて取り決めました。

台東大学とは既に、2010年9月、本学学長の飯田稔先生ら3人が訪台し、両大学間の友好と学術交流を促進するために、「国際交流に関する合意書」を取り交わしています。これに基づいて翌年1月には4人の教員が来校し、本学教員に対し大学や授業内容などについてや大規模な体育祭についての講演をされました。また、びわ湖バレイスキー場で、本学教員や学生たちと彼らにとって初体験であるスキーを楽しみました。

2011年6月には、野外スポーツコースの中野博教授と当時国際交流委員長だった金田が、台東大学で開催された国際学術研究会に招へいされ、講演を行いました。

この際、中野教授は台東市近辺で、大学院生や指導教授等とともにスキューバダイビングをはじめサイクリングロードでのサイクリングや緑島で



のハイキング、また、学生の授業に参加し沢登りを行うなど、いろいろな野外活動を体験しました。

2012年3月には、先の「合意書」を交換留学に関してさらに具体的にするための「協定書」を結ぶ準備に、本学から2人の教員が訪台しました。学長との話し合いの後、学内視察で「身心整合與運動休閒産業」学系の実習風景を見て、学生から1時間余りにわたっての心身の調整およびリラクゼーションの実際を体験させていただきました。

今年は5月に入り台東大学から、今秋から交換留学を実施したいとの要望があり、宿舍、費用、日程などについ

での問い合わせが来ています。

4月の調印式には、台東大学からは劉学長をはじめ4人が来校し、豊かな自然に囲まれた大学の環境やテニス部や野球部などの練習風景を見て、その充実ぶりに感心していました。

また、調印式の前日の3日、本学の入学式に列席していただき、祝辞を述べていただきました。英語と中国語でのあいさつでしたが、新入生諸君は、国際色も加わった入学式に大いに感動し、世界に開けた未来を見たのではないのでしょうか。

前国際交流委員長 教授 金田 安正



活用進む 野性の森

比良エリアに昨年できた「野性の森」の活用が進んでいます。今年1月に女子サッカーの日本代表チーム(なでしこジャパン)で活躍する澤選手や川澄選手が所属するINAC神戸の選手ら約20人が、オフシーズンのトレーニングに利用。川澄選手が自身のブログで「野性の森」を紹介するなど、野外運動を提唱する本学の取り組みが注目されています。

野性の森は、比良エリアの雑木林を活用し、丸太や板塀など自然の森の中に人工的に作られたさまざまな施設を使う野外運動の実践の場です。体を鍛えることよりも仲間と助け合ったり、絆を深めたり、あるいは難問に立ち向かう時、いかにリーダーシップを発揮するかなどむしろ「心」や「脳」を活性化するのに役立つといわれ、筑波大では早くからJリーグの指導者研修などに活用されてきました。野外運動の推進者でもある飯田学長や野外スポーツコースの教員らが野性の森づくりに取り組み、昨秋に完成しました。

高さ3mの垂直に立つ板塀を6人余りのグループで1人ずつ登るゲームがあります。体重の重い人と軽い人、機敏性に富んだ人とそうでない人、仲間の協力や試行錯誤を繰り返しながら最後に残った1人が塀を登るとクリアになりますが、助け合いと創意工夫を組

み合わせなければ、なかなか成功しません。

野性の森には、これまでINACのほか、積雪で練習ができなくなった富山県の高校サッカー部もオフのトレーニングで挑戦しました。体重90kg近い選手を肩車で下から支え、先に登った選手が懸命に引き上げる姿は、心を通わせた助け合いがなければ達成できない感動的なシーンでした。

2013年度の新入生による「フレッシュマンキャンプ」でも、この野性の森が活用されました。ASE(Action Socialization Experience)という「仲間づくりゲーム」。各班がさまざまな課題に立ち向かい、クリアしていきます。切り株の上に全員が乗って10秒間立ち続ける「日本列島」。1人が台の上に後ろ向きに立ち、そのままの姿勢で後ろに倒れる。これを班のほかの全員で受け止める「バックフライング」…。1年次生は、自然の中で大いに楽しみ、学び、そして絆を深めていきました。

学校で起きる「いじめ」やスポーツ指導者による体罰、暴力などスポーツ界からは次々と旧体質の「うみ」が吹き出しましたが、指導者も選手も「野性の森」でまずは「心」を洗い直してみたいかがでしょう。

佐々木則夫監督が客員教授就任

プロサッカー指導者の佐々木則夫氏が4月から本学客員教授に就任されました。

本学のサッカー部監督で競技スポーツ学科スポーツ情報戦略コースの望月聡教授(前なでしこジャパンコーチ)との二人三脚で日本の女子サッカーを世界の頂点に導いた佐々木監督に、飯田学長や望月教授が熱烈なオファーを送り、今回の客員教授就任が実現しました。佐々木監督は一昨年秋、FIFA女子ワールドカップドイツ大会で優勝後に本学の文化講演会で基調講演されましたが、今回の客員教授就任で本学との結びつきがより深くなります。佐々木監督は、多忙なスケジュールの合間を縫って本学にて特別講義などを行う予定です。また、開学から10年間、客員教授として講義された井原正巳氏(Jリーグ柏レイソルヘッドコーチ)は3月末で退任されました。

佐々木客員教授の略歴

1958年生まれ。帝京高から明大卒業後、NTT関東サッカー部監督を経て2006年に日本女子代表コーチ、2007年に代表監督。2008年北京五輪4位の後、チームをさらに強化して2010年アジア大会優勝、2011年に女子W杯優勝。国民栄誉賞を受賞し、2012年のロンドン五輪では日本サッカー史上初の銀メダルを獲得した。



「相手への敬意」が肝心

2013年フレンチオープンから

男子国別対抗戦デビスカップ2013で日本代表監督を務める植田実教授(競技スポーツ学科)が、テニスの4大国際大会の1つであるフレンチオープンの視察に、パリのスタッド・ローラン・ギャロス競技場を訪れました。日本テニス協会強化本部長も務める植田教授の「世界レベルの視点」による観戦記を紹介いたします。

フレンチオープン(ローランギャロス)のためパリに来ています。6月1日、錦織圭選手が地元フランス選手に6-3 6-7 6-4 6-1で勝ち、4回戦でラファエル・ナダル(スペイン)と対戦します。

その3回戦で相手は2回目の

警告を受け、ポイントを失う場面がありました。審判に猛抗議するフランス選手を後押しするブーイングでスタジアムは騒然となりました。次のポイントで錦織がサービスのモーションに入っているにもかかわらず、ブーイングで妨害します。錦織は何度か待ちましたがいっこうにおさまらず。審判に対する抗議が対戦相手である錦織に向けられプレーを妨害するという事態となりましたが、観客を敵にまわすことを避け自分のプレーに集中した錦織の態度は立派でした。決して本調子ではなかった錦織のプレーでしたが勝負に對しての自己コントロールは揺らぐことはありませんでした。テニスのテクニック、戦術、フィジカルの成長を越えた「錦織圭の強さ」を感じ、ラファエル・ナダル戦がより一層楽しみになりました。

テニスマンとして「相手への敬意」が自分をコントロールすることにつながるということを再認識した一日でした。

デビスカップ日本代表監督 植田 実 (競技スポーツ学科 教授)



植田実教授(左)とフランステニス協会強化本部長のラファエル・ナダル氏(右)。

大阪成蹊大学・大阪成蹊短期大学・大阪成蹊女子高等学校 スポーツ&カルチャーセンター

陸上競技部 2年目スタート “ピンクの旋風” さらに強く

木村を軸に大活躍した2012年

まるで、チームの成長した姿を表しているようです。グラウンドの脇で、春の訪れとともにあつという間に満開の花を咲かせた桜に見守られながら、大阪成蹊大女子陸上競技部が2年目のスタートを切りました。さらなる飛躍を期して、有望な“ルーキー”たちとともに。

昨春に創部したばかりにもかかわらず、チームカラーのピンク&黒のユニフォームをまとった選手たちは、この1年で『Team SEIKEI』を大いにアピールしました。

5月の関西インカレでは、木村茜が100mと200m、上田繭が100mハードルと“看板選手”2人で計3種目に優勝。木村は翌月の日本選手権200mでも8位に入賞しました。

秋も勢いは止まらず、9月の日本インカレでは木村が100mと200mの2種目に入賞。木村が2走として牽引、1走を河本晴香、3走を酒井里桂、アンカー

を手塚麻柚が務めた4×100mリレーでも決勝進出を果たしました。10月には日本ジュニア選手権で木村が2年連続短距離2冠&MVPに輝き、日本選手権リレーでは5位入賞を遂げています。

確かな足跡を残したチームは、初めて迎えた冬季練習を順調に終了。トラックシーズン開幕に備える選手たちの姿に瀧谷賢司監督(大阪成蹊大学マネジメント学部教授)も「ひと冬、いい練習ができました。全体的にひと皮むけてきました」と目を細めます。

輝くスーパールーキーたち

そして今春、チームに11人の新たな力が加わりました。瀧谷監督が「とにかく能力が高い選手ばかり」と絶賛するルーキーたち。記録面や実績では現2年生をもしのぐ選手たちがずらりと顔をそろえました。

筆頭格は、やり投を中心に昨年のインターハイで女子フィールド優勝をたった1人で成し遂

げた投てきの山内愛(神奈川・小田原城北高出)、日本ジュニア選手権100mハードル覇者の萩田梨菜(静岡・浜松工高出)、世界ジュニア選手権走幅跳代表の末永成美(鹿児島女高出)、インターハイ7種競技5位の松岡絵里(兵庫・姫路商高出)の4人です。このほかにも、名門校のエース級たちが、「強い先輩たち」がいて、和気あいあいとした中で真剣に取り組む「練習の雰囲気」に惹かれて『Team SEIKEI』に集結しました。そして、それぞれが志高く、新たなステージに挑もうとしています。

瀧谷監督は2年目のシーズンに向けて、「まだまだ学生のチーム。いろいろな物事の考えが大人になってほしい」としながらも、「日の丸をつける選手が1人でも2人でも出てくれば、いろいろな“空気”が変わってくるでしょう」と期待を寄せています。2013年、大阪から一段と強くなった“ピンクの風”が吹いてくるに違いありません。



写真提供/月刊陸上競技

大会名	種目	順位	記録	選手名
セイコーゴールデンランプリ 陸上2013東京	やり投	8位	52m84	山内 愛
第29回静岡国際陸上大会	200m	4位	23秒92	木村 茜
	100m	6位	11秒71	木村 茜
第47回織田幹雄記念 国際陸上競技大会	B決勝 100H	3位	13秒72	上田 繭
	B決勝 100H	6位	14秒20	萩田 梨菜
	やり投	2位	55m73	山内 愛
	7種競技	7位	4659点	松岡 絵里
2013日本選抜陸上和歌山大会	走幅跳	8位	5m54	末永 成美
第61回兵庫リレーカーニバル	100m	1位	11秒88	木村 茜
	200m	1位	24秒42	木村 茜
	100H	1位	13秒76	上田 繭
	100H	5位	14秒07	萩田 梨菜
	4×100m	1走	武本 知紘	
		2走	木村 茜	
		3走	酒井 里桂	
		4走	吉見 美咲	
	4×400m	1走	木村 茜	
		2走	加藤 春菜	
		3走	酒井 里桂	
		4走	吉見 美咲	
走幅跳	3位	5m71	末永 成美	
三段跳	5位	11m74	永山 優	
やり投	2位	52m29	山内 愛	
7種競技	2位	4870点	松岡 絵里	
	8位	4404点	橋本 愛里花	
総合	5位		67点	

バトントワリング部 河津コーチが2種目で栄冠



スポーツ&カルチャーセンターの強化クラブ・バトントワリング部のコーチである河津修一氏(びわこ成蹊スポーツ大学卒)が、第38回全日本バトントワリング選手権大会の『フリースタイル個人』と『ダンストワール』の2種目でグランドチャンピオンに輝きました。

指導にあたった水野啓子先生(バトントワリング部監督)は「フリースタイル個人は、過去16年間の集大成とも言える歩いてきた道、これから歩いていこうとするバトン人生が見えるような作品で、人の心を打つ演技でした。ダンストワールは、バトンとボディがブレンドされ、他の追随を許さない独自の世界がありました」と評価しました。

そして河津コーチは「フリースタイル、ダンストワールともに、素晴らしい作品に出会えたこと、そしてご指導いただいた先生やサポートしてくれたたくさんの方々に、最高の結果として恩返しができ、とてもうれしく思います。また新たな目標に向かって努力していきます」と喜びを語っています。



フットサル部 めざせ! 「全日本大会」

2012年度、関西学生フットサルリーグで優勝を果たしたフットサル部は、春休みには、高校生の大会(大阪成蹊カップ)を大阪成蹊大学マネジメント学部と共催して、マネジメント能力を養うとともに、三重合宿を行い、チーム戦術の徹底を図りました。5月5日には岡山県の学生大会に出場し、全員の底上げを図るという目的がありながらも、結果としては4位(3位決定戦でPK戦負け)と、着々と実力をつけています。

新入生は、昨年高校サッカー準優勝チームである京都橘高校や高校サッカーの全国大会常連校である作陽高校・野洲高校出身の選手、そして高校時代からフットサルを続けていてフットサル神奈川県選抜や熊本県選抜経験もある選手——と多種多様なメンバーでしっかりとした基盤を作りつつあります。

最大の目標である全日本大学フットサル大会出場・優勝に向けて、着々と準備を進めています。

テニス部

活動方針 『テニスを通じた自分力・人間力の向上』

「スポーツ=文化」。みなさんとテニスに取り組みながら、技術を高めるだけでなく鍛錬、成長過程を通じて、人間的な進歩成長を図ることができればと考えています。

そのなかでまず始めることは、“テニスを心から好きになり、楽しむこと”。何事に取り組むにあたって、その過程において不可欠なことは好きであること。そうあることで、技術も向上し、また意欲も湧き、そのための苦しい鍛錬にも、耐え、

さらに高みを目指すことが可能になると信じています。

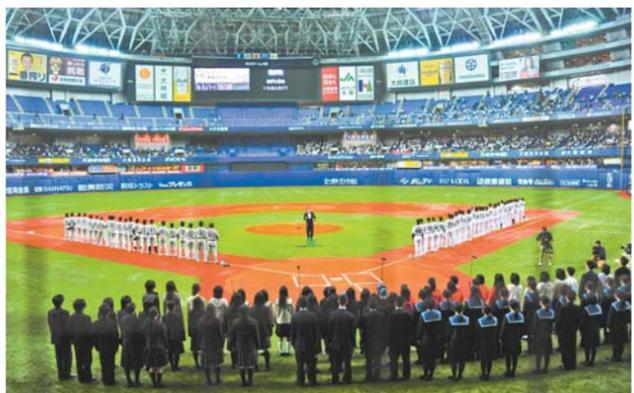
またテニスにおいては、直感やひらめきといった感性が非常に重要な要素です。学生生活や講義、通学など生活のあらゆる場面で競技、人間力のアップにつながる“第六感”を磨いてほしいと思います。スポーツ、テニスを遊び、楽しみながら、ともに成長できることを願っています。

テニス部監督 木下英明

コーラス部

☆1月に箕面市立メイプルホールで行われた第12回大阪ヴォーカルアンサンブルコンテスト青少年部門で金賞を受賞しました。

☆大阪・中之島に完成したばかりのフェスティバルホールで行われた、今夏の第95回全国高校野球選手権記念大会の期間中に、阪神甲子園球場に流れる大会歌『栄冠は君に輝く』の収録に参加しました。



ドームで国歌斉唱

☆4月5日に京セラドーム大阪で開催されたオリックス・バファローズVS西武ライオンズ開幕セレモニーの国歌斉唱に参加しました。



Topics

大阪成蹊大学 マネジメント学部

フットサル強豪校、大阪に結集

第1回大阪成蹊CUP2013

第1回大阪成蹊CUP2013が、3月16・17日に本学で開かれました。

開催2カ月前の高校サッカー選手権大会全国大会で準優勝した京都橘高校を筆頭に、作陽高校(岡山県)、松山工業高校(愛媛県)、遊学館高校(石川県)、興国高校(大阪府)という高校サッカー界でもトップクラスの実力を持つ高校とフットサルの強豪として名高い鶴見大学附属高校(神奈川県)という、地域もさまざまな高校にはるばる大阪まで来ていただき、インターネットのSNSをはじめ、各方面でかなり話題になった大会でした。

2日間にわたった大会には、各選手の保護者も多数駆けつけ、応援に熱のこもった大会になりましたが、最終的に、高校年代のフットサル大会でも活躍している作陽高校と京都橘高校、そしてフットサルプロパーの意地を見せた鶴見大学附属高校との三つどもえの優勝争いとなり、高い個人能力と洗練されたグ

ループ戦術を見せつけた作陽高校が、記念すべき第1回大会の優勝を飾りました。

大会参加校からは、「いろいろな地域の高校と対戦できて、愛媛から出てきたかきがありました。ぜひ夏にも開催してほしいです」(松山工業高校)「フットサルだけでなくサッカーにつながる要素がいくつもあったので、今後も参加させてください」(遊学館高校)「この大会の経験が、今後のサッカーにうまく活かそうです」(京都橘高校)「実にすばらしい環境でフットサルができるのでうらやましく、進学したくなりました」(鶴見大学附属高校)と非常に高い評価をいただき、本学の地の利・環境の良さを評価していただいた大会となりました。今後も定期的に、本大会を実施したいと思います。

本大会開催にご尽力いただいた関係各位に、あらためて心より感謝申し上げます。



レッスンに励む学生たち



滑走技術とビジネスを学ぶ

スポーツビジネスコース スキー実習



移動のバスの中



スキー場でのランチ

2013年2月19日(火)と2月20日(水)の2日間、スポーツビジネスコースの学生が、びわ湖バレイで集中講義「スポーツエクササイズ演習4(スキー実習)」を受講しました。びわ湖バレイは、滋賀県・琵琶湖のほとりにある初心者向けのスキー場です。当日は天候が心配されましたが、吹雪になることなく安全に滑ることができました。

履修学生数は22人で、そのうち半数近くがスキーは初体験だったにもかかわらず、2日間の練習で全員がゲレンデを上手に滑って降りてこられるまでに上達しました。学生だけの個人的な練習だけでなく、スキースクールのインストラクターに指導してもらうことで短期間にスキーのレベルが上がったようです。

宿泊は、大阪成蹊学園びわこセミナーハウスを利用しました。夕飯は鍋で身体を温め、味も好評でした。また食後はミーティングを実施し、学生全員がスキー実習初日の感想を話しました。実習を通して、スキーの滑走技術だけでなく、仲間やチームワークの大切さを学んでいるようでした。

実習の最大の目的は、スキー場ビジネスの現場を知ることでした。バブル崩壊以来、スキー場来客数が減る中で、どのようにしたらスキー場にお客さんが来るのか、学生自身がスキー場を利用することで学ぶ貴重な機会でした。リアルな現場に触れ、これからのスキー場ビジネスの改善策について議論し、レポートを作成しました。スキー場ビジネスの課題について、学生ならではの視点から、鋭い洞察をしているレポートも見られ、現場を知ることの大切さを学生一人ひとりが学んでくれたように思います。



企画書についてアドバイスを受ける学生たち

本学マネジメント学部は、2012(平成24)年度より採択された文部科学省「産業界ニーズに対応した教育改善・充実体制整備事業」の取り組みの一環として「産学連携ワークショップ」を行っていますが、その中で今年度はメディアビジネスに関連したテーマで開催しました。

「スマートフォン用アプリの企画書の作成」と「Flashを使ったウェブ制作・アプリ制作」の二大テーマのワークショップを、2月6～7日に同時開催しました。

「スマートフォン用アプリの企画書の作成」のテーマでは講師に杉山康彦氏(株式会社シーイー・フォックス代表取締役)を迎え、近年急速にビジネス展開が進んでいるスマートフォン向けアプリについて、新アプリの機能提案から開発、販売に至るまでのプロセスを擬似的に体験しまし

た。参加学生は、講師からのアドバイスを得ながらも主体的にターゲット顧客や販売価格を設定するとともに、最終的には収支予測も含めたビジネス提案書を作成し、その発表を行いました。

一方、「Flashを使ったウェブ制作・アプリ制作」の講師は吉岡史樹氏(株式会社ペルペトゥム代表取締役)です。Flashという動画編集ソフトを使ったアニメーション制作と、そのアニメーション作品をインタラクティブな操作が可能なコンテンツに仕上げるといった内容で行われました。どちらのテーマも、学生がビジネスの現場で必要とされている能力やスキルを肌で感じる事ができたという点で、産学連携の目的を果たせるものとなりました。



アニメーション制作の様子

産学連携ワークショップ

文部科学省 産業界ニーズに対応した教育改善・充実体制整備事業



食ビジネスコース

現場から「食」学ぶ

大阪府中央卸売市場見学

大阪府中央卸売市場と本学園は今年1月に事業連携協定を締結しました。生産者・市場・量販店と食の流通すべてにつながりがある大阪府中央卸売市場と、大阪成蹊大学の食ビジネスコース、大阪成蹊短期大学の栄養コース、食物コース(調理クラス・フードコーディネートクラス)が協力し、食に関する人材の育成や食の安全・安心、食育等の情報発信を行っていくことになりました。

提携後の初めての大きな行事として、1月22日

(火)、マネジメント学部食ビジネスコースの学生と教員が大阪府中央卸売市場を見学に訪れました。食ビジネスコースは昨年の4月にマネジメント学部開設された新しいコースで、経営学、食物学、情報学の3領域を柱にカリキュラムが編成されています。1年次後期に食品流通論の授業があり、その中で卸売市場や卸売業について学びますが、卸売市場はコンビニエンスストアやスーパーマーケットのような他の流通業とは異なり、学生にとって身近な存在ではなくイメージしにくいので、流通の現場を見ることは大変貴重な経験となりました。

当日は活気にあふれる青果のせりを見たあと、水産物仲卸業者の方から魚の説明を受け、水産卸会社、青果卸会社、市場・指定管理者などとの意見交換を行い、食品検査所を見学しました。食品検査所では消費者に安心を提供するために食の安全に関する多様な検査が行われていました。

学生にとっては、教室で学んだことをリアルな現場で実感できる機会となりました。実際に自分の目で見て、また市場で働いている方の話を聞くことによって、卸売市場や卸売業の役割を理解することができたようです。

今回の見学をもとに、本コースでは学生が専門演習で販売促進企画を学び、売場作りや量販店への販売プロモーションを企画できる環境を整え、大阪成蹊短期大学と共催で高校生に向けた食のイベント「フードトラベラー」を開催するなど食に関するさまざまな取り組みを行っていきます。



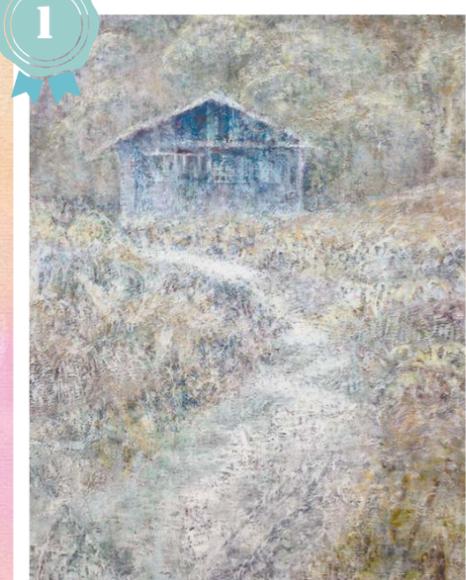
食品検査所で食の安全について説明を聴く学生たち

Topics

大阪成蹊大学 芸術学部

学生受賞報告

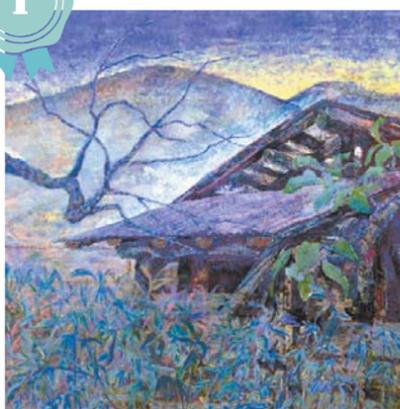
最近の芸術学部の学生活動から各種展覧会やコンペティションの受賞結果を報告します。



房拓弥さんの「道」



前田彩乃さんの「決意の日」



房拓弥さんの「朝焼け」



塩田侑子の「Puliton」

- ①房 拓弥(美術学科4年生)
 - ・第48回日展日本画部春季展 入選
 - ・芸術系大学合同作品展Arts Bar2013 Arts Bar実行委員賞
- ②前田彩乃(美術学科4年生)
 - ・第39回京都春季日本画創画展 入選
- ③塩田侑子(環境デザイン学科3年生)
 - ・減災デザイン・プランニングコンペ 減災デザイン審査会入賞
- ④千葉 遥(美術学科4年生)
 - ・京都府美術工芸新鋭展2013京都美術ビエンナーレ 入選
- ⑤川上りえ(情報デザイン学科2年生)
 - ・第97回二科展 第10回ポストカードデザイン大賞 入選

アート&デザイン・コンペティションに 応募しませんか？



芸術学部では大阪成蹊女子高等学校の美術・イラスト・アニメーションコースとの共催による「大阪成蹊アート&デザイン・コンペティション」を今年度も開催します。また毎年後援をいただいている毎日新聞社様から、今年度より審査にも加わっていただくことになりました。今年度からの芸術学部マンガ・デジタルアートコースの開設に伴い、この分野の作品の応募も開始します。その代表的なものとして、2ページ以上のストーリーマンガ、2本以上の4コママンガ、コミックやライトノベルのためのイラストレーションの応募をスタートさせます。そのほかの募集部門の作品についても、大きさや形式に昨年度より一部変更がありま

すので、詳しくは「応募要項」をご参照ください。掲載の写真は、昨年度の高校生の部と中学生の部の各グランプリ作品です。高校生の部は段ボール紙を使った胸像作品が大変な力作で審査員の先生方がそろって投票しました。中学生の部は、一昨年度の入賞者ですが更なる努力でグランプリを獲得しました。彼女は4月から大阪成蹊女子高校美術コースに入学しました。学校賞受賞校の先生方から、年々作品の質が向上しているとお褒めの言葉をいただいております。力作ぞろいのコンペティションとなるように努力していきますので、ご協力をよろしくお願いいたします。



高校生の部グランプリ作品昨年度



中学生の部グランプリ作品(同)



4年間の集大成を披露

2012年度卒業制作展&ファッションショー

2013(平成25)年2月後半から3月にかけて開学から11回目となる「卒業制作展およびファッションショー」が開かれました。相川キャンパス移転後初

めてとなる展覧会は、南館ギャラリーを中心に各教室やホールを用いて展覧会場として、第1期(2月20~24日)には情報デザイン学科の3コース、第2

期(2月27日~3月3日)には環境デザイン学科の3コースと、美術学科の3コースの学生作品が、それぞれの会場を埋め尽くしました。中でも学長賞をはじめとする各受賞作品は圧巻で、特に相川の皆さんにはなじみの薄いプロダクト・クラフトデザインコースの工業製品や家具などのデザイン作品や、空間インテリアデザインコースの設計模型などには注目が集まりました。また、洋画や日本画の大作の前ではゆっくりと鑑賞する観客が多く、1000人を超す多くの来場者を迎えました。

また、展覧会に先立つ2月17日には、環境デザイン学科のテキスタイル・ファッションデザインコースの4年生と3年生による、ファッションショーが図書館棟1階の食堂「ラ・サンティエ」で開催されました。3年生の「and」と題したショーではエネルギーでバラエティあふれるファッションが披露され、後半の4年生による「muni」と題したショーではコースの特性を生かした、テキスタイル素材からファッション造形にいたるトータルなコーディネートによるテーマ性の強い作品

群が、個性的な演出で観客の目を奪いました。日ごろよく利用している食堂のフロアが、全く異次元の世界へと作りかえられ、驚きと賞賛の拍手が学生たちにおくられました。



第1期(2/20~2/24)



第2期(2/27~3/3)

Topics

大阪成蹊短期大学

生活デザインコース

学生も園児も「衣」で客席魅了

成蹊ファッションショー

昨年に引き続き、平成25年2月23日(土)にT・Bホール(大阪市中央区東心斎橋)にて卒業制作展としての成蹊ファッションショーが開催されました。アパレルデザインクラスの「創作研究」の授業の一環として行われていますが、ファッションコーディネートクラス所属の学生も任意で制作に参加して実施されました。今回のショーでは、全体共通のテーマ「創造・想像」をベースとして、さらに学生それぞれが自身のコンセプトを挙げ、それらをもとに衣装作成を行いました。また、大阪成蹊大学芸術学部の学生の協力のもと、音楽と映像を合わせた演出も取り入れられました。今年度は、このメインテーマに加え、こみち幼稚園園児がモデルとなって、テーマ「春夏秋冬」によるキッズファッションショーも同時開催し、さらには夏季に実施した第2回高校生ファッションデザイン画コンテストの優秀作品の紹介および表彰式という、盛りだくさんの内容で行われました。

衣装の制作は、早い時期に取りかかったことから、比較的余裕を持った制作となりました。しかし、それでも本番前になれば、細かな修正やイメージと異なることも多く気づくようになり、結果的には本番前日の夜遅くまで制作

に取り組んでいました。衣装の制作もさることながら、特に今年度の学生が苦労したのが演出方法でした。限られたランウェイ(ステージの花道)を、いかに工夫して映像と音楽に合わせて魅せるか、という難題に最後まで試行錯誤していました。

それら努力の甲斐あってか、いざ本番は素晴らしい出来上がりでした。まず、ショーの最初に行われたキッズファッションショーでは、春・夏・秋・冬それぞれ数名ずつの園児がそれぞれの季節のイメージの衣装をまとい、誘導役の学生とともに皆で手をつないで元気に歩いていました。驚くべきことに、本番直前のたった1回のリハーサルだったにもかかわらず、堂々とランウェイを歩く園児たちの姿は、のみ込みの速さに驚かされました。続いて、学生たちのテーマ「創造と想像」では、11人のデザイナー学生が、苦労して仕上げた1人あたり4着の衣装を、それぞれ概ね4分という限られた時間を存分に生かして演出しました。テーマの中には子供服も含まれており、再びこみち幼稚園の園児たちにも活躍してもらいました。今回のファッションショーでは全ての衣装が披露された後、テクニカル、クリエイティブ、そして総合的なグランプリという3つの部門での表彰が行われ、昨年同様に大変すばらしいショーにまとまりました。

また、表彰のための審査を行っている時間を利用して、第2回高校生ファッションデザイン画コンテストの優秀作品の紹介が行われました。注目すべきは、理事長賞・学長賞・生活デザイン賞の上位3賞においては、それらのデザイン画を実際の衣装に仕上げ、さらにそれらをデザインした高校生本人がその衣装をまわってランウェイを歩くという企画も行われ、デザインした本人たちも緊張しながら受賞を喜んでいました。

昨年に引き続き、第2回目となった今回のショーも各学生が個性を存分に生かした内容となり、本当に素晴らしい内容でした。2年間で学んだことをこのような目に見える形で発表することのできる企画は、後輩の学生にも良い刺激になったものと思います。今年度のショーはさらにパワーアップして実施する予定です。

総合生活学科

食物コース

調理クラス



多彩なテーマの料理を披露



フードコーディネートクラス



去る1月25日の授業最終日に本学において総合生活学科食物コースの「調理クラス」と「フードコーディネートクラス」の卒業作品展を開催しました。今回は図書館棟3階の食堂スペースを借りて、初めて両クラス同一会場での展示となり、学びの専門性をより生かした卒業作品展を実施することができました。

調理クラスでは学生自身が設定したテーマに沿って作り上げた料理作品を24作品、フードコーディネートクラスでは「Welcome to The Cinema World」をテーマに映画のイメージをテーブルコーディネートで表現した13作品を展示発表しました。

どちらのクラスの作品も学生の創意工夫と個性にあふれ、2年間の学びの成果を大いに感じることができたものでした。また、当日は学内外の多数の方々に見学いただき、学生にとって学生生活の締めくくりにふさわしい一日となりました。

今後も各クラスの特徴を生かしたさまざまな取り組みを通して、学生の意欲、能力や個性を伸ばせるよう指導していきたいと考えています。

栄養コース



食物コースと同時開催の栄養コースの卒業作品展では、2年間の集大成として、病気になった時の治療食や病気の予防食についての展示を行いました。例えば、慢性腎炎の治療食はタンパク質の摂取量を制限しますが、お肉の量が少なくても、健康な時の食事と同じように感じる食事を考え展示しました。

治療・予防食への学び、展示

また、栄養について遊びながら興味をもってもらうための教材として、「栄養素ランキング!」と「食事の栄養早わかりツール!」をフェルトで作成し展示しました。さらに今年は、大阪府中央卸売市場共催による「なす料理レシピコンテスト」と「お弁当の日コンテスト」を行いました。

栄養コースでは、2012年度から自分で弁当を作る「弁当の日」に取り組んでいます。いずれも力作ぞろい、1年および2年間の成長と成果が表れていました。



卒業制作展 2013

観光学科



人形浄瑠璃フォーラムで奨励賞を受賞

関西には、日本を代表する有形無形の「本物」の資源が集積しています。例えば、国宝や重要文化財は、関西だけで全国の約半数を占めるそうです。国土交通省近畿地方整備局では、「はなやか関西～文化首都年～」と題し、関西を文化首都圏として発展させることを目的に毎年テーマを決めてイベントの支援や情報発信を行っています。

観光学科では、2012年、この「はなやか関西」のテーマとなった「人形浄瑠璃」

について学生による研究にチャレンジすることとしました。そこで授業で取り上げましたが、ほとんどの学生は「人形浄瑠璃」を鑑賞した経験がなく、歴史的な背景を学習する必要がありました。そのため、大阪成蹊大学の中村隆嗣教授に人形浄瑠璃の歴史や成り立ちを教えてください、国立文楽劇場で「人形浄瑠璃」を鑑賞したりしました。同時に「観光マーケティング部」のクラブ活動としてもこの企画に参加しました。

その結果、10月6日(土)大阪歴史博物館で開催の「人形浄瑠璃フォーラム」で、本学観光学科2回生の井ノ口友里恵、薦田麻菜、里山実希、米田有里、福森結(敬称略)の5人が研究発表を行いました。ツアー企画の名称は「出張人形浄瑠璃」で、この特徴は、劇場に足を運ばなくても、出張で人形浄瑠璃をお客様に楽しませるといったものです。2つのプランがあり、大阪コースでは、「大阪城」で近松門左衛門のヒット作「曾根崎心中」を鑑賞し、昼食時には関西各県の食材を使ったお弁当を食べながら漫才を楽しみます。その後、大阪城内をお笑い芸人さんがご案内

し、水上バスで道頓堀まで移動、自由に難波周辺を散策します。そして最後は、バスで竹本義太夫の墓をお参りして解散です。京都コースでは、淡路から出張した「人形浄瑠璃」を太秦映画村で楽しみ、後は、映画村にある人形遣い体験、衣装体験、忍者ショーなども楽しんでもらうというものです。

フォーラム当日は、基調講演に続き、本学の他に関西学院大学、立命館大学、そして奈良県の朱雀高校が出席。審査の結果、グランプリは、朱雀高校が獲得し、本学は、奨励賞を受賞しました。このような機会は学生にとって貴重な体験で大きな自信につながったようです。なお、今年のテーマは、「食文化」です。先輩同様、今年も観光学科の学生の一層の活躍が期待されます。



Topics

こみち幼稚園

保育室に入りピアノを弾きだすと、子どもたちが自然に集まって来て一緒に歌います。弾き終わると、「つぎはこれひいて!」とどンドンリクエストが入ります。気持ちよく歌っている子どもを見ながらピアノを弾いていると、一人の男児(3歳児)が私の近くにやって来て、「〇〇せんせい(担任の名前)も、おうたをうたうのがすきやねん」とこっそり教えてくれました。保育室の前を通った時に、笑顔でくしゃくしゃになりながら、子どもたちと楽しそうに歌を歌っている〇〇教諭の姿をすぐに思い浮かべることができました。

よく、卒園する時に保護者から「▲▲(子どもの名前)は先生の弾くピアノに合わせて歌を歌うのが大好きでした」という言葉をいただきます。ある一人の女の子の話ですが、生活発表会当日フイナーレの歌でピアノ伴奏を音だけ間違ってしまったのですが、会場内は拍手喝采でした。子どもたちも達成感や満足感で頬を紅潮させ、興奮冷めやらぬ状態で会場を後にした時、その女の子が「せんせい、いっこだけおとまちがったでしょう」と言ってきたのです。そのことにまず驚いたのですが、それを聞いていた別の女の子が「そんな言ったらあかん。ちょっとだけでしょう!」と怒りだしたのです。「えっ? 二人にはわかったの?」とびっくりしたことを覚えています。



子どもたちは、よく「聴いて」います。先生が途中で間違っただとしても、指摘はしませんが、「わかって」いるのです。「おべんとう」の歌を歌っている最中に突然【短調】に替えて弾きだすと、「えっ?」という顔をしながらも、音程を合わせて歌い、中には「せんせい、そんなかないうたがちがうねん。もっとげんきなうたやで」と教えに来てくれる子どももいます。【かなしそう】【げんきな】という曲想を心で感じているんだなとしみじみ思う出来事です。

随分前になりますが、私がピアノの発表会に出演した時です。弾き終わり、「あ〜いっぱい間違っちゃった」とがっかりしながら、舞台を降りていくと、老夫婦が近づいてきて、「感動した。どうもありがとう」と泣きながら言ってくれました。その時は??とピンと来なかったのですが、数年前、あるバイオリンのリサイタルで、音が鳴った瞬間全身に鳥肌が立ち、涙がとめどなく流れたのです。その音楽

豊かな心
はぐくむ



は何度もCDで聴いていたものでしたので、自分でも驚いたのですが、演奏者の緊張感や、会場の空間から全身に伝わってくる音が「私の心」に響いたのだなと思いました。

子どもたちにも、CDもいいけれど、やはり生の音楽を聞かせてあげたい、と思っています。昨年度の発表会では、年長のあるクラスのミュージカルで最後に女の子が一人で歌を披露するシーンがあったのですが、初めは、CDに合わせて歌っていましたが、どうもしくり来なかったの、「ここは、先生のピ

アノで歌おう」とアドバイスをしました。すると、先生の緊張感と女の子の緊張感が一気に会場に伝わり、観客席からは、大きな拍手をいただくことができました。大きなパーサート人形で「ピノキオ」を演じた時には、ピノキオが亡くなるシーンでBGMに「G線上のアリア」を弾くと、ピノキオの人形を持っていた園児が(客席からは全く見えないのですが)、がっくりと自分の首を落とし、自分はピクリとも動かずにじっと人形を支えている姿に舞台裏で見ていた先生が「あの姿を見て涙が出た」と言っていました。もちろん観客席も同様でした。

ある音楽大学の学長が、入学式で新入生に向けて「君たちは、【音楽】を学びに来たんだよ。【音学】でも【音が苦】でもないんだよ」というあいさつをされたそうです。音楽は、人を元気にしたり、ちょっとキュンとなったり、ワクワクしたり、悲しくなったり…と心を揺さぶります。本園では、昨年度から専門の音楽講師を招いて直接指導を受けています。講師にも、「音楽指導を通して『歌うことって楽しいな』『みんなで合奏できたらうれしいな』そんな子どもにしたいんです。【音楽】を教えてください」とお願いしています。

素晴らしい絵画を見たり、音楽を聴いたりすることは、『心を育てることだ』と言われています。今後も多くの芸術に触れ、豊かな心をもった子どもたちを育てる「こみち幼稚園」でありたいと思っています。

こみち幼稚園 教頭 井上扶美

教育研究支援センター

教育委員会・自治体との協定締結について

大阪成蹊学園は、多くの大阪府内の各教育委員会、また各自治体と連携協定を締結しました。今後協定をもとに、より地域に密着した活動を展開していくこととなります。

教育委員会との協定締結は、2014年4月開設予定(設置認可申請中)の大阪成蹊大学教育学部(仮称)の新設に向けたものではありませんが、今年度も大阪成蹊短期大学・びわこ成蹊スポーツ大学における教育実習の実施や、優秀な教育人材の育成、また教育にまつわる情報交換などに取り組んでいきます。

また、各自治体においては、教育に関連した事業にとどまらず、短期大学観光学科、芸術学部、マネジメント学部食ビジネスコースなど、学部・学科・コースの特徴を生かした連携事業を予定しており、本学園と各自治体の発展と充実に貢献できるような地域連携を積極的に推進します。

今後ますます、本学が地域社会に根ざした存在となるよう、学園全体で取り組んでいきます。

【締結実績】

2012(H24).12~2013(H25).5

〈教育委員会〉

- ・池田市教育委員会
- ・茨木市教育委員会
- ・大阪市教育委員会
- ・吹田市教育委員会
- ・摂津市教育委員会
- ・高槻市教育委員会
- ・豊中市教育委員会
- ・豊能町教育委員会
- ・能勢町教育委員会
- ・東大阪市教育委員会
- ・箕面市教育委員会

〈自治体〉

- ・池田市
- ・豊中市
- ・東淀川区

レシピ開発など3本柱で 大阪府中央卸売市場との連携事業

栄養コースの学生たちが園児たちに食育の一環としていちごムースの提供を行った



レシピ開発

『レシピ開発』では、大手量販店で開催された「大阪府中央卸売市場まつり(熊本産フェア)」において、短期大学総合生活学科栄養コースの学生たちが熊本県産の「でこなす」をテーマに考案したレシピの紹介と試食を行いました。他にも、市場を通して全国の産地と連携し、佐賀県のキュウリや和歌山県のエンドウマメ、こみち幼稚園の修了記念会食で園児たちにも提供された「いちごのムース(熊本県産いちご使用)」など多くのレシピを開発しています。今後も、大阪府中央卸売市場内にある卸会社の社員食堂のメニュー開発や、熊本県JA大浜の「トマト酢」を使用した商品やレシピの開発、芸術学部の学生によるトマト酢のラベルデザインなど、レシピ開発から商品開発等へと事業内容も広がりを見せており、学生たちにとって在学中から将来の仕事に触れられる良い機会となっています。

オープンキャンパス協力

『オープンキャンパス協力』では、総合生活学科の栄養コースと食物コース調理クラスが、毎回食材の提供を受け、事業を展開しています。3月24日(日)のオープンキャンパスでは、調理クラスにじゃがいもを8品種ご提供いただき、3品種の食べ比べと8品種のディスプレイを通して、調理師の仕事をより具体的に体験してもらうことができました。

また、栄養コースでは、いちご4品種を提供してもらい、「いちごの糖度測定体験」を行いました。その後も調理クラスがトマト(4月)、梅・柑橘類(5月)、栄養コースがニンジン(4月)、ブロッコリー(5月)を提供してもらうなど、これから実施されるオープンキャンパスにもご協力をいただく予定になっています。



各産地の協力を得て、さまざまな品種の食材提供を受けオープンキャンパスを実施



学生が主体になってレシピ開発を実施している

フードトラベラー

『フードトラベラー』は大阪成蹊学園と大阪府中央卸売市場が共催する食のスペシャルイベントです。

高校生向けの本イベントは、参加者が「フードトラベラー(食の旅人)」となり、「生産(はじまり)」から「消費(終わり)」という「食のすべて」を、リアルに体験し、旅するまったく新しい企画となっています。初めての開催となる今回の食材は「ホウレンソウ」、「トマト」と「ニラ」。高校生一人ひとりの食に対する理解と、本学に対する興味、将来に対する憧れを醸成していきます。

今後も大阪府中央卸売市場との連携を深め、学生たちの成長機会、「食の大阪成蹊」をアピールする機会として、さまざまな事業を展開していきます。

日本への興味くつきり * 交換留学生歓迎会 *

大阪成蹊大学・大阪成蹊短期大学教育研究支援センターは2013年4月22日(月)に、交換留学生歓迎会を開きました。

大阪成蹊大学芸術学部では、マサチューセッツ芸術大学(アメリカ)、デンマーク王立芸術アカデミーデザインスクール(デンマーク)、ノリッチ芸術大学(イギリス)と、また大阪成蹊短期大学では、済州観光大学(韓国)との交換留学制度があります。

今回の歓迎会には、デンマーク王立アカデミーデザインスクールのJalte WindumさんとMarie Frøhlichさん、済州観光大学の宋侖娥さん、また9月か

らノリッチ芸術大学に留学予定の生田大祐さん(芸術学部環境デザイン学科テキスタイルファッションデザインコース)、2月26日(火)から3月25日(月)まで済州観光大学での語学研修に参加した大森茜さん(大阪成蹊短期大学生活デザインコースファッションコーディネートクラス)が参加しました。

大阪成蹊大学の武蔵野実学長からは「国境を越えて学べるということは世界が平和であることの証であること、また20世紀は戦争の時代だったが、21世紀は若いあなたたちが平和の時代にしてほしい」と歓迎の言葉があり、また、大阪成蹊短期大学の岡本正志学長は、

自身が研究のためデンマークを訪れた際の話や、古代より韓国の技術が日本に与えた影響について紹介し、交換留学生たちに「日本でたくさんのことを学んで帰ってほしい」と述べられました。

交換留学生の自己紹介では、それぞれが日本の文化や芸術について学びたいことについて語りました。また、京都や奈良などの歴史文化や芸術への興味のほか、「復興を目指している東北も訪れてみたい」という声もあり、日本への関心の高さがうかがえました。また、派遣予定の生田さんからは「イギリスに留学するまでに語学力を高めたい」と意気込みが語られ、既に韓国

の語学研修を終えた大森さんからは「韓国語を少しでも話せるようになってよかった」と報告がありました。

歓迎会は1時間半で終わりましたが、終了後も留学生同士の話は続きました。



2013年度

びわこ成蹊スポーツ大学

春の公開講座

教室名	回数	参加料 (保険料含む)	定員	対象	開催期間	曜日	時間	会場	申込方法	申込期間
1 水中ウォーキング教室	10回	10,000円	20名	健康な方	4月26日～7月9日	金	12:30～13:30	アクアセンター(プール)	メール または Fax	受付終了
2 ストックウォーキング教室	8回	5,000円	20名	健康な方	5月10日～6月28日	金	10:00～11:30	大学周辺		受付終了
3 水泳教室	5回	5,000円	10名	水泳の苦手な方	5月7日～6月4日	火	11:00～12:00	アクアセンター(プール)		受付終了
4 体力向上教室	8回	10,000円	20名	健康な方	5月9日～6月27日	木	13:00～15:00	トレーニングルーム他		受付終了
5 初心者トレーニングルーム講習会	1回	1回1,000円	10名	健康な方	4月～7月 毎月第1第3	火 木	13:00～15:00 10:00～12:00	トレーニングルーム他		開催日の前日 15:00まで
6 ホノルルマラソンを目指そう びわこランニング教室!	12回	20,000円	30名	初心者ランナー (これからランニングを始めようと思う方含む)	6月8日～11月30日	土	9:30～12:30	大学及び 大学周辺		受付終了

※教室参加条件：病気や障害などにより医師などから運動制限をされていない方

○申し込み方法：e-mail(sen@bss.ac.jp)またはFAX(077-596-8447)で、氏名・年齢・郵便番号・住所・電話・ファックス・メールを記載しお申し込みください。

○お申し込みいただいた個人情報は、本学からのイベント案内、保険加入(氏名・年齢)、当スポーツ教室の開催事務以外には使用しません。

○トレーニングルームの一般開放を初めてご利用になりたい方は、5月から開催の初心者トレーニングルーム講習会に参加ください。

Information

大阪成蹊アート&デザインコンペティション2013

募集期間：8月1日(木)～9月30日(月)

対象：【高校生の部】

近畿圏内(大阪・京都・滋賀・兵庫・奈良・和歌山・三重)の高校生、及び本学が指定する近畿圏外の美術系専門校等の高校生(学年は問いません)

【中学生の部】

近畿圏内(大阪・京都・滋賀・兵庫・奈良・和歌山・三重)の中学生(学年は問いません)

詳細：HP(URL http://univ.osaka-seikei.ac.jp/event/art_conpe/index.html)

教育支援人材プログラム「こどもパートナー」「こどもサポーター」認証講座

日程：【こどもパートナー】6月23日(日)、7月21日(日)、11月10日(日)

【こどもサポーター】10月27日(日)

時間：【こどもパートナー】10:00～15:10

【こどもサポーター】9:00～18:00

会場：大阪成蹊大学 南館

対象：地域で子どもたちの教育を支援する活動や取り組みに関心をお持ちの方々(行政・学校関係者、子ども関連企業、地域住民、学生など)

問い合わせ：06-6829-2630

「成田久 展」

日程：7月14日(日)～28日(日) ※ただし21日(日)は休廊

時間：12:00～18:00 *土日は17:00まで

7月14日(日)、28日(日)は15:00で閉廊

入場無料

会場：大阪成蹊大学 学内ギャラリー <space B>

オープンキャンパス&スクール

◇大阪成蹊大学・大阪成蹊短期大学◇

10:00～15:00(受付9:30～)

*大阪成蹊の入試を知ろう!

6月16日(日)・7月14日(日)・28日(日)

*大阪成蹊に決める!

8月4日(日)・18日(日)・25日(日)・9月1日(日)

*入試チャレンジオープンキャンパス

9月29日(日) (公募推薦入試対策講座)

12月22日(日)

◇びわこ成蹊スポーツ大学◇

9:30～15:00(受付9:00～)

第1回 6月16日(日) 第2回 7月20日(土)

第3回 7月27日(土) 第4回 8月24日(土)

第5回 12月14日(土)

URL http://www.bss.ac.jp/ex_info/oc.html

◇大阪成蹊女子高等学校◇

●8月24日(土)

10:00START

●9月28日(土) ●10月26日(土)

●11月9日(土) ●16日(土)

●12月7日(土) ●14日(土) ●21日(土)

13:30START

*成蹊フェスタ(幼教こどもフェスタ同時開催)

●10月5日(土)

10:30～14:00